

パパパリーン広島皆実自己評価結果

事業所名		児童発達支援 パパパリーン広島皆実					公表日	2026年 2月 1日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	1	活動に応じてレイアウトを工夫し、広い空間を使うことができるようしている。		今後も同様にしていく。		
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	0	新しいスタッフも増えてきている。		今後も支援状況等に応じて、人員配置を適切に行っていく。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	2	床面はフラットになっている。 階段はバリアフリー化されていない。		階段は手すりや滑り止めで対応している。		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	0	空気清浄機や加湿器を使い、常に温度や湿度が一定に保たれるようしている。 フリールームを用意して落ち着ける環境を作っている。		人数が多い時に必要な椅子や机が足りていない。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	フリールームをいつでも自由に使える場所として提供している。		いつでも自由に使える場所ということを児童に認識してもらえるようにしていく。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	毎朝の朝礼で行っている。		個々のスタッフのスキルを上げて、PDCAをよりスムーズに行うことができるようしていく。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	アンケート調査を実施することによって保護者の意向を把握し、業務内容を改善していく。		保護者の方の意見もそれぞれ違うため、個別に対応し、改善していく。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	0	年に数回リーダーとの面談を設けており、職員が意見を言う場を作っている。		意見や要望を積極的に取り入れ、より良い職場作りを心掛けている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2	今は行っていない。		評価を行い、結果を見て改善できる部分についてスタッフ間で話し合い、改善に繋げていく。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	0	資質向上や、資格取得のための研修に参加している。		今後も様々な研修に積極的に参加していく。		
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4	0	児童発達支援支援計画に基づいたプログラムを作成している。		ミーティングの際にプログラムについて話し合い、個々の能力に合わせた活動内容を設定している。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4	0	モニタリングで保護者のニーズを確認し、児童発達支援支援計画を作成している。		子どもの発達段階をよく理解し、児童発達支援支援計画に反映していく。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	0	児童発達支援支援計画作成時に会議を開き職員全員で内容を共有するようしている。		子どもの最善の利益を考慮した検討を行っていく。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	0	児童発達支援支援計画作成時に会議を開き職員全員で内容を共有するようしている。		日々の振り返りの中でも児童発達支援支援計画に沿った支援ができているか確認しながら行っていく。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	関係機関で検査した内容を参考にし支援に役立てている。		フォーマルなアセスメントツールを使用できる職員がいないため、使用できるようにしていく。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1	児童発達支援計画にそれぞれの項目を設け、具体的に支援内容を設定している。		「移行支援」・「地域支援・地域連携」に関しては実行できていないのが現状なので機会を設け積極的に進めていきたい。		
17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	0	ミーティング時に活動案を出し合い、プログラムを作成している。		ミーティングの際にプログラムについて話し合い、子どもたちにとってより良い活動ができるようにしている。			
18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	0	季節に合わせて活動を変え、固定化しないようしている。		スタッフ間で意見を出し合い、子どもたちが興味を持って参加できる療育プログラムを考えていく。			

	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	1	子どもたちの様子に応じて、活動内容を考えたり、活動を組み合わせたりしている。	今後もその都度子どもたちの様子をミーティング等で話し合い、活動に意欲的に参加することができるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	0	毎朝朝礼を行い、一日の流れの確認や担当についてなど話し合うようにしている。	朝礼で一日の流れの確認をし、記録にも残して確認できるようとしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	個々で振り返りを行っている、全体では翌日の朝礼でおこなっている。	個々での振り返り後、スタッフ間で情報共有して今後の支援に生かしていくことができるようとしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	0	毎日記録し、支援方法の改善につなげている。	支援後毎日記録をし、支援内容や配慮すべき点などスタッフ間で話し合うことができるようとしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	0	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。	半年に一度は保護者の方と面談して思いや様子について共有し、計画の立て直しをしている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	1	3	会議がある際には必ず誰かが参加するようにはしている。	会議の内容を他事業所や学校の先生などの意見を聞いてスタッフ間で共有する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	体制を整えている。	必要に応じて連携する。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	3	保育園・幼稚園等に児童に関する対応などを聞き、支援に生かすようにしている。	積極的に地域、行政などともかかわっていき、保育園、幼稚園など情報共有を密にしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	3	対象の児童がまだいない	まだ実績はないが、事業所内では情報共有をし、放デイの利用に向けて連携を取っている。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	-	-		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	-	-		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	-	-		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	3	今は行っていない。	これから機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	3	今は行っていない。	利用児が通っている園などに相談などをしてなにかできることがないか検討する。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	0	送迎の際に近況を聞いたり、事業所の様子を報告している。また定期的に面談を行っている。	より共通理解が進んでいくように、面談などの機会を増やす。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	3	面談や送迎の機会に、対応の仕方などをアドバイスすることがある。	ペアレントトレーニングなどの研修がある際は情報を提供し参加を促していく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	0	契約時に丁寧な説明をおこなっている。	今後も同様にしていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	0	モニタリングで保護者のニーズを確認し、児童発達支援支援計画を作成している。	子どもの発達段階をよく理解し、児童発達支援支援計画に反映していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	0	契約時に丁寧な説明をおこなっている。	今後も同様にしていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	面談や送迎の機会に、対応の仕方などをアドバイスすることがある。	悩みが解決するように対応方法を考え、事業所内でも解決する方法を考え、実施していく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	3	今は行っていない。	これから検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	電話だけでなくLINEを使って連絡を取り合うことにより相談しやすい環境を作っている。	相談などがあった場合、事業所内で解決する方法を考え、実施していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に對して発信しているか。	4	0	発信している。	月に一度おたりを出したり、ブログを更新したりして、子どもたちの活動の様子を公開している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	0	写真利用については同意書をいただきたり、書類の保管は施錠して行ったりしている。	個人情報は施錠付き保管庫で管理し、データは各PCにパスワードを設定して管理している。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	0	絵カードなどを用いて意思の疎通ができるようしている。	情報を伝える手段を工夫し、よりよい方法を模索していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	3	今は行っていない。	これから検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	0	緊急避難先など、周知している。	各種避難訓練を今後も今まで通り行い、緊急時に対応することができるようしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	0	月に一度、行っている。	毎月避難訓練を行い、避難の仕方や避難場所の確認をスタッフ・児童と共にに行っている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	0	契約時に確認している。	今後も同様にしていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	診断書のある児童に対して、配慮している。	契約時にアレルギー等確認し、対応できるようしている。また、職員に対してアレルギー対応についての研修を行っていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	安全計画を作成している。	児童が安全に過ごせるように、今後も安全管理を徹底する。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1	契約時に確認している。	今後も同様にしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	0	ヒヤリハット事例を記録し、事業所内で把握、確認できるようにしている。	作成し、ミーティング等で話し合って情報共有し、予防が出来るよう努めている。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	0	研修を受けている。	定期的に研修を受け、虐待への意識付けをするようにしている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	2	2	記載している。	契約書に記載し、契約の際に保護者には説明している。虐待に関する研修を定期的に行い、職員の意識を高めている。